

フリースタイルな 僧侶たちの フリーマガジン

平成22年6・7月
第6号

仲西俊光 副編集長

若手僧侶と、一般人を繋ぐ
プロジェクトをアシスト

おすすめイベントPickUp!!

円融寺(東京・目黒区) ちょっと坐ろう会 / 金曜夜禅 / 写経と仏典に親しむ会
浄慶寺(京都・中京区) 第100回ぶっちゃけ問答「宗派を越えてお坊さんと大激論」

森愛歩

コラム: 私、仏教をイマジネーションします!

好評連載: Ayakaのヘルシー精進レシピ
「夏野菜の雑穀ファルシ」

Webにもアクセス!

編集スタッフがお届けするPodCastなどWeb独自のコンテンツ満載!!
表紙写真のお坊さん(小野剛賢さん)主催の瞑想教室の案内なども。
フリーマガジンの記事への評価とコメントもお待ちしています。

<http://freemonk.net>

フリースタイル 僧侶

検索





若手僧侶と、一般人を繋ぐ プロジェクトをアシスト

～客観的ポジションから、池口代表と共に走った一年間～



「もう、お坊さんになったら？」

フリースタイルな僧侶たち（フリースタイル）の創刊にあたり、お坊さんではない僕が、ご縁のある寺院を回っているときに時々言ってもらった言葉だ。もちろん目いっぱいの本気ではないと思うが、冗談半分にせよ、そのように言ってもらえるのは、非常にうれしかったことを覚えている。そして、それに対する僕の答えは「客観的な視点から仏教に関わりたい」と。

この「客観的に仏教に携わりたい」というスタンスは、約10年変わっていない。佛教大学仏教学科卒業後に、専門紙にて記者としてお寺を飛び回っていた時にも「こっち（僧侶の世界）に来たらいいのに」と、言ってもらったこともある。だけど、その時から同じように答えていた。

「同じことを言い続ける人間は退化。違うことをいうのは進化」という詭弁を弄して、前例をドンドン破っていく僕だけれど、この部分はめずらしく「ブレて」いない。

物事はすべからずそうだと思うが、当事者になると見えなくなることがある。仏教に対して思い入れがある僕なので「客観的」に仏教に接したい…そんなことをずっと思いながらも、広告代理店に転職、職種も記者からコピーライターに転向し「お寺の世界とは、もう繋がることはないだろうな」と思っていた矢先、代表の池口龍法に会った。それが、フリースタイル設立のきっかけとなり、またガッツリと仏教と接するように。何かの因果が縁なのかわからないけれど、こうなった以上は、一生懸命やるしかないなと。

フリスタを通じて、お寺の活性化を

僕がお寺に求めるのは、大きく分けて2つ。「お寺の開放」という物理的な部分と、悪徳な宗教に対するリスクヘッジという精神的なもの。僕にとつてのフリスタは、そういう動きを促進していくためのプロジェクトであつて、お寺や僧侶の持つポテンシャルを引き出すためのものと思つている。

さて、お寺の開放の動きは「お寺は公益法人。だから地域に開放しなければならぬ」というロジックに基づき、ずっと言われ続けていること。少なくとも僕は二〇〇一年に、宗教専門紙で記事にしようと思つた時「使い古されたネタ」と言われていた。しかし、お坊さんの世界では普通のことであつても、一般の人にとつては「お寺を開放するのが当然のこと」と言われてもピンとこないのが実情ではないだろうか。そして、数多くの寺院が門



極楽浄土には、蓮の花が咲きほこり、俗世の苦しさから逃れられるという

戸を開きたくても開けないという事情を抱えている。

各宗派のシンクタンクなどの情報に拠ると、お寺の住職だけで食べられるという収入を得られているのは、全体の1〜2割程度とされる。それ以外は「坊主丸儲け」どころか、サラリーマンなどで得た収入を「持ち出し」て、伝統あるお寺の修復につとめているというのが現状。だから多くのお寺からすると、もしお寺開放などを大々的にやっても対応できないわけで、「これ以上、やっかい事を増やしたくない」という部分もある。そうやって何とか維持してきた寺院運営も、そろそろ限界。檀家離れは進み、追い討ちをかけるかのような昨今の不景気でお布施も減る一方だ。「お葬式不要論」まで飛び出し、いよいよ未期的な状況にきている。

でもだからこそ、乾坤一擲の手段として「お寺の開放」をするべきだと思つている。そのために超えるべきハードルは多く高い。それは、これまで「だましまし」続けてきたツケでもある。今の時期が「お寺の開放」に舵を切る最後のチャンスだと思つている。

精神的支柱としての仏教

憲法にも定められた「宗教の自由」は、しっかりと担保されるべきだ。「親が入信しているから、子供も自動的にその宗教を信じる」つてのは、フェアじゃないしナンセンス。家庭で育つ中で、親が入信している宗教の影響を子供が受けるのは当然のことだと思つ。しかしそれは、あくまでも「宗教」というものの本質を知る

ためであつて、信仰の押付けは絶対にあつてはならない。私事だが、僕の母親は50歳で亡くなった。その時に来た坊主（あえて、この言葉を使う）が放つた「うちの宗派を疑うな。ただ信じていれば、お母様は天国に行ける」という言葉に激怒した。

僕は信仰的にはキリスト教を信じていたりするし、でも学問的には仏教を応援しているなど色々なバックボーンを抱えている。しかし、宗教を信じる信じないに関係なく「良いことをしたら、天国へ。悪いことをしたら地獄へいく」という、絶対に譲れないラインがある。

話がそれたので本筋に戻すと、僕が思う理想の僧侶と寺院のあり方は、「プロ意識」を僧侶が持ち、それを実践することで檀信徒と住職がフェアな関係を築いていくこと。決して「先祖代々」とかいふ、既得権益に乗っかずに、だ。

その「プロ意識」の一つが、一生懸命に「人と接することにあるのだと思つ。それが、仏教を説く僧侶ができる、最大限のことではないだろうか。それが一般の人々の精神的支柱となり救いとなるだろうし、大きな目で見えた時に「社会貢献」に繋がると信じている。

若手僧侶とコミットすることの意義

「それで結局、仲西君に何の得があるの？」——— 前述の通り、フリスタ創刊時は、協賛寺院を募るために営業活動に奔走していた。その頃に、僕の事を思つて言つて頂いた言葉だ。その時は胸を張つていうことができなかったが、ある程度の成果が出てきた今なら、「若手僧侶の

アシストを通じて、社会貢献できることが楽しい」とはつきりと言える。フリスタ設立当初から「仏教を通じて、公益的な事業をしたい」というミッションは明確だったが、当時は不確定要素ばかりで、先が見えない状態だった。しかし、今は確実にミッションを推進し、各メディアなどにも取り上げてもらえるようになってきた。そこに、僕は面白さを感じている。

例えば「お寺開放」地域活性化「公益性の担保」という概念は、ベテラン層のお坊さんの間では言い古された事だろう。しかし、若手僧侶の間ではまだまだ共有されていない。そういう部分を、フリスタはアシストしていく役割を担っていると感じている。これからも、一般人と若手僧侶が接する機会を増やす活動のサポートを「客観的な立場」から、推進していこうと思つ。

友人から相方に

次号では当事者である池口代表の「一年の振り返り」が執筆される予定。池口代表と、僕の関係は当初「友人」であり「ビジネスパートナー」に近いものがあった。しかし、最近良く使うのは「相方」という名称。もともとお笑いが好きな二人だから、そういう言葉の方がしっくり合うような気がする。そんな相方の気合の入った原稿に期待を込めつつ、キーボードを打つ手を止めたいと思つ。

(副編集長&ディレクション担当

仲西俊光

親鸞聖人にならって 俗に生きることに徹したい

京都・中京区の浄慶寺(真宗大谷派)



実践派のお坊さんが多いフリスタ・リーダーズ・クラブの中でも、随一の行動力をほこるのが真宗大谷派浄慶寺住職の中島浩彰さん(39)。この3月に深夜から翌朝にかけて徒歩で往復30キロの比叡山詣でを企画し、実行すると聞いた時は度肝を抜かれた。しかし、今でこそ精力的に活動する中島さんだが、お坊さんとして生きることを決心するまでには、紆余曲折があったという。

わずか5歳の時に、住職だった父親を失い、「世継ぎ」としての期待を一身に受け続けてきたため、いつしか「お寺」というものがトラウマに。体一つで法務も子育てもしてくれた母親に感謝し、「早く業にしてあげたい」と思う一方で、仏教には無関心を装うなどの葛藤があった。

転機は、大学時代の恩師が、「真宗とは

生きるということを考え続ける哲学のよなもの」と語ってくれたこと。何か答えにたどり着くことを目的とするのではなく、疑問を持ち考え続けることが仏教として、真宗として大切なのだと理解したとき、仏教との接し方が変わり、「この道なら歩んでいってもいい」と思った。

27歳で住職に就き、二〇〇一年には「ぶつちやけ問答」を開始。僧侶も一般人々も、所詮は同じ悩める人間。分け隔てなく学び合う空間を作った。お葬式のことから時事ネタまでテーマもさまざまに、あらゆる人に心を開いて活発に語り合う時間は、しばしば夜更けにまで及ぶ。今年10年目になる「問答」は近々第百回を迎える。

今の夢は、お経の「ストリートライブ」。伽藍や庭園に興味を持つ人は多いが、教えやお経のことはあまり注目されないとこの現実をしっかりと受け止めて、まずは「声を出すこと、見える動き(笑)」が狙いだ。

「いかに俗に徹するか」という信条を聞くと、浄土真宗の祖師親鸞聖人の「僧にあらず俗にあらず」という生き方をふと思わせる。本人は「特に意識したわけではない」と言うが、祖師から受け継いだものだろう。果敢に社会との交流を模索する中島さんと、これ

からも歩みたい。

(取材 編集長 池口龍法)

News&Present!!

淡路島にて「ほんまもん」にこだわったお香創りをされている薫寿堂さまが**オフィシャルスポンサー**に決定!!

「**仏教を熱くしよう**」という想いは私たちと同じ志。読者プレゼントにて、**素敵なお香**を寄贈(5箱)して頂けます。

応募は「フリースタイルな僧侶たち」Webサイトまたはpresent@freemonk.netへ。

次号のフリスタにて特集(予定)しますので、楽しみにしてください!!

Pick Up!!

●第百回「ぶつちやけ問答」

〜語りいの場 自由空間〜
日時 .. 6月16日(水)
午後7時半〜10時

テーマ: 「宗派を越えてお坊さんと大激論」

参加費 .. 3000円

会場 .. 浄慶寺

京都市中京区御幸町竹

屋町下ル松本町563

定員 .. 30名

●お問い合わせは

メール: jkg@maiaonet.ne.jp

TEL: 075-1211-0442

※「フリースタイルな僧侶たち」Webサイトからもお申し込みできます。

雑穀のぷちぷち感と濃厚なグリル野菜の味が楽しめるファルシ。
塩こしょうだけのシンプルな味付けで、夏野菜の甘さを引き立てて。
熱々でも、サラダ感覚の冷製でも、美味しくいただけます。

Ayakaのヘルシー精進レシピ

夏野菜の雑穀ファルシ



材料(2人分)

ミディトマト 4個
ズッキーニ 1本
万願寺とうがらし 4本

詰め物

エシャロット 1個
セロリ 5cm程
塩漬けケイパー 大1
黒オリーブ 5粒
松の実 大1
米、雑穀ミックス 合わせて1/2カップ

タイム 2枝
セルフィーユ 1枝
オリーブオイル
塩、こしょう



1 トマトはへたの部分がふたになるように、ズッキーニは縦半分、万願寺とうがらしはへたを斜めに、それぞれ切る。トマトとズッキーニは器になるように中身をくり抜いたあと、軽く塩を振っておく。くり抜いた部分はみじん切り。万願寺とうがらしは種を取り除いておく。



2 塩漬けケイパーは水で戻し、黒オリーブは輪切りに。エシャロットとセロリはみじん切り。米と雑穀はたっぷりのお湯に塩を入れ、12分ほどアルデンテにゆでた後ざるにあけ、冷水でぬるつきと粗熱を取ってボウルに移しておく。

3 フライパンにオリーブオイルを熱し、エシャロット、セロリ、トマトとズッキーニをみじん切りしたものと、ケイパー、松の実を炒める。野菜がしんなりしたらタイムの葉の部分だけを加えて、塩こしょうしてさらに軽く炒め、熱いまま米と雑穀のボウルに合わせてなじませる。味を見て、必要なら塩こしょうで調味する。



4 トマトとズッキーニは水切り、万願寺とうがらしは詰め物がしやすいように切れ込みを入れて、3と黒オリーブを詰めていく。耐熱皿に並べ、タイムの枝を乗せてオリーブオイルを回しかける。180℃のオーブンで30分程焼く。セルフィーユを散らし、エクストラヴァージンオリーブオイルを回しかけ、サーブする。



5 熱々はもちろん美味しいけれど、翌日も味がなじんで冷製のアンティパストにぴったり。ピネガーやマヨネーズでいただくボリュームのあるサラダとしても。

tips 茄子やパプリカなどでも同じように作れます。ぜひ、色鮮やかな夏野菜を目でも味わって!食感を変えるならじゃがいもでも。その場合は皮つきのままゆがいて半分に切り、中身をくり抜いて。

written by
Ayaka
Reguchi
(料理愛好家)

私、仏教を

イマジネーションします！

食べるということ

私は「食べることに、とにかく関心が高い。大学でも家政系を専攻し、徹底的に「食」にこだわった。中学生の時から、家に帰ってくるなり冷蔵庫に直行がお決まりのパターン。とにかく食欲旺盛。そんな性格なので、料理を作ることも大好き。

でも、何といても「食べる」と「を思う存分楽しみたいのが本音。1日3回の食事を心から味わうことは「人生を左右するのでは!?」とさえ思っているからだ(笑)

食いしん坊な私が、大学生だったある日の出来事

授業に出席していると、先生が驚くような話をはじめた。「最近の小学生は魚の切り身が、海で泳いでいるって信じているのよ!」——「瞬、先生が何を言っているのかサッパリ理解できなかったが、どうやら最近の家庭では母親が忙しく、魚を裁いて調理するという手間を省くために、頭をあらかじめ切

り捌いた魚が売られているのをごらしい。そのため、食卓に並ぶものは頭のない魚ばかり。スーパーなどで惣菜として売られているのもほとんどが切り身。

頭のない魚しか知らずに育った子供たちは「切り身が、魚本来の姿」と思っていると。これは衝撃的だった。「食にこだわる」私的には、できることなら頭の付いた魚をちゃんと味わってほしいと思う。「生ゴミが匂うから、食べない顔は別になくても」という働くママの気持ちもわかるのだけれど、そこはちよつと耐えて頂いて、本来の魚の姿を子供たちに知っておいで欲しいと願っている。

丁寧な食事の挨拶は、気持ちが良い!!

私の友人にはとても気持ちの良い食事の挨拶をする人がいる。当



の本人は全くもって無意識だそうだが、彼の「いただきます」と「ごちそうさま」は、傍で聞いていて実に気持ちが良い。体育会系なノリを思わせる、豪快な食べっぷりな彼。しかし、その姿からは想像できないほど、食事の挨拶は丁寧だ。

どうしても気になったので、ある日、「手を合わせる時は何を考えているの?」と尋ねてみると「食べ物と料理を作ってくれた人に感謝するようにしている」と、さも当たり前のように彼は答えた。

私たちはお金で買える利便さを手に入れた代わりに、大事なモノを失ってしまったのかもしれない……とその時に、痛感した。「食べることは、命をいただいていることなのだ。そして、それが私たちの口に運ばれるまでの工程をイメージする「想像力」を失ってしまったのだ。

一方、京都に目を移すと

京都はどのシーズンも、たくさんのお寺見物の観光客で賑わっている。確かにお寺は建築も仏像も息をのむ美しさがあり、迫力ある山門を目にするだけで、「堂々と構えて、素直な自分でいてもいいのかもしれない」と勝手に励まされることがある。

でもここで一歩踏み込んで考

えてみたい。「機械もない時代に、この巨大な建築を建てたってスゴイことではないか。人々は何を想っていたのだろう」と。そんな背景に心を寄せ、想像を膨らませただけで「仏教って、もしかしたら物凄いものなのではないか?」と胸に迫るものがある。

(文 森愛歩)

浄土宗西山禅林寺派 光明院 法話会

「年をとると時間がたつのは早い」と感じませんか?
お経の中にあるいろいろな時間の話と、医学生理学の立場から、ゆっくり上手に時を過ごす方法をお話します。



日時 6月23日(水)
午後2時 勤行 本堂
午後2時10分 法話 書院
光明院住職・田中医院院長 僧医 田中善紹
「仏教における時間の世界—上手に時を過ごすには—」
午後3時30分 茶話会
参加費 1,000円
会場 光明院
〒604-8336京都市中京区六角通大宮西入る
詳細・申し込みは当寺ホームページを参照ください。
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/tanakazk/>



森愛歩(もりあゆみ)・プロフィール
1986年生まれの滋賀出身、京都市在住。同志社女子大学生生活科学部を卒業後、出版社にライターとして勤務。現在は独立し「豊かに暮らす」をモットーに京都の良さ、伝統文化の良さを発信するために、奮闘中。

ネットラジオ(池口&仲西トーク)にお便りを!

編集スタッフたちのナマの声を是非皆さんに届けたい、という勝手な意気込みから始めた、ポッドキャスト(ネット上の音声配信・ラジオ)。フリスタ立ち上げ時の苦労話や、現在の寺院や若手僧侶が抱えている問題などについて、本誌編集長の池口が当事者目線から、副編集長の仲西が俯瞰的目線から、



般若湯——いわゆるお酒です(笑)——を飲みながら、グダグダと、ちょっと真剣に語っています。音声はフリスタのホームページに随時アップしていますので、いつでもアクセス!今年3月末に開始し、すでに10話程度を公開中。MP3プレイヤーをお持ちの方は通勤や通学のお供に、是非!私たちがどういふ想いで活動しているか——拙いトークですが、「熱さ」だけは、無駄にあります(笑)そして、番組を聞いてくれた人をお願い!私たちに便りをドンドンくださるとうれしいです。夜更けまで及ぶ番組の収録も、リスナーの皆さまの温かい声に励まされています。なお、お便りは番組内で行うことができます。

フリスタ・クラブ会員募集中!!

私たちの活動に共感し、応援して下さる人を大募集中!! 「サポーターズ・クラブ」と「リーダーズ・クラブ」があります。

■フリスタ・サポーターズ・クラブ

対象者 フリスタを応援していただける方
協賛年会費 5千円
※ フリスタ・サポーターズの皆様には、年間6回発行予定の本誌をお届けします。また、フリスタ主催の各種イベントにおいて、優待いたします。

■フリスタ・リーダーズ・クラブ

対象者 仏教に関する資格や知識を持ち、フリスタの指導者として活動していただける方
協賛年会費 1万円
※ フリスタ・リーダーズの皆様は、フリスタの指導者として、各種活動に参加していただけます。また、フリスタ・サポーターズ同様のサービスも含まれています。

お申し込み、お問い合わせは、フリースタイルな僧侶たち編集部(電話番号などは下記)まで。ホームページからもお申し込みいただけます。

協賛のご報告

本誌発行にあたり、以下の皆様よりご協賛をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 安心院
(京都府八幡市・浄土宗) | 勝楽寺
(東京都町田市・浄土宗) |
| 安楽寺
(京都府南丹市・浄土宗) | 瑞聖寺
(東京都港区) |
| 延命寺
(大阪府堺市・浄土宗) | 崇福寺
(滋賀県甲賀市・浄土宗) |
| 円融寺
(東京都目黒区・天台宗) | 大圓寺
(東京都目黒区・天台宗) |
| 教伝寺
(京都府船井郡・浄土宗) | 臺鏡寺
(大阪府枚方市・浄土宗) |
| 九品寺
(京都府京都市南区・浄土宗) | 檀王法林寺
(京都府京都市左京区・浄土宗) |
| 光明院・田中医院
(京都府京都市中京区・浄土宗) | 念佛寺
(三重県伊賀市・浄土宗) |
| 光明寺
(滋賀県草津市・真宗興正派) | 法善寺
(大阪府大阪市・浄土宗) |
| 西明寺
(兵庫県尼崎市・浄土宗) | 法然院
(京都府京都市左京区) |
| 浄観寺
(兵庫県伊丹市・浄土宗) | 薬師院
(京都府岸和田市・真言宗) |
| 浄元寺
(滋賀県甲賀市・浄土宗) | 株式会社 薫寿堂
(兵庫県神戸市) |
| 正善寺
(兵庫県伊丹市・浄土宗) | |
- ※ 五十音順に表示しています。
※ 協賛は随時受け付けています。

限り、取り上げさせて頂きます。投稿はホームページの専用窓口から。メールやツイッターなどからも受け付けていますので、よろしくお願ひします。
(池口・仲西)



フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン

平成22年6月1日発行 第6号
発行元 フリースタイルな僧侶たち 編集部
〒661-0982 尼崎市食満6-11-15
TEL 090-5896-6478(池口) / 070-5658-4922(仲西)
info@freemonk.net
http://freemonk.net

※ 本誌のコンテンツを無断で転載することを固く禁じます。

題字
DTP&デザイン
ライティング・
ディレクション
企画・制作・編集
総指揮

しらたきなべお
池口龍法 仲西俊光
仲西俊光
池口龍法 仲西俊光
池口龍法

Special Thanks 薬師院 阿字観瞑想教室